



シリーズ

武雄の治水

vol.45

～水と共に生きるまちへ～

NEWS

北方中学校で治水シンポジウムを開催しました

1月9日（金）北方中学校で治水シンポジウムを開催しました。

若い世代にも**治水の重要性**を理解してもらうことを目的に、**初めて中学生を対象**に実施しました。

●シンポジウムの様子

北方中学校1・2年生と保護者を含めて約140名が参加しました。

当日は、国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所の吉田 知之副所長と武雄市まちづくり部治水対策課の吉野 修一課長がパネリストを務め、六角川の特徴やこれまで発生した水害の歴史、流域治水の考え方について説明しました。



●発表内容

パネリストを務めていただいた吉田副所長と吉野課長の発表内容を簡単にご紹介します。



①【六角川流域の地形や特徴】

六角川の特徴



佐賀平野は低い土地が広がっていて、六角川は普段は流れが緩やかな河川だが、有明海の干満の影響を受けるため、**大雨と満潮**が重なると浸水被害が起こりやすい。(詳しくはバックナンバー vol.8)

②【洪水の歴史と最近の天気】

温暖化で**空気中に溜まる水の量が増え**、一度に多くの雨が降るようになった。
(詳しくはバックナンバー vol.43)

③【河川事業と流域治水】

河川整備だけでなく、みんなで治水対策に取り組む**「流域治水」**が大切。
(詳しくはバックナンバー vol.2)

④【これからのまちづくり】

水害の解消に加えて、**まちの魅力が向上**するようなまちづくりを進めていくことが、これからの治水対策。
(詳しくはバックナンバー vol.38・41)

●中学生の声

令和元・3年の水害の時、家の近くの川がいっぱいになって、溢れてしまったのを覚えています。自分にもできる治水があるということが分かったので、できることからしてみようと思いました。

有明海の満潮・干潮の影響で橘地区まで有明海の水が広がっていることが分かりました。私も両親に話して、もっと理解を深めようと思いました。

通学路に去年から排水機場ができて、どんな事をしているのか疑問に思っていたのですが、雨水などを川に流していると知りました。洪水にならないために取り組んでもらえる事はとてもありがたいと感じました。

お問合せ まちづくり部 治水対策課 ☎0954-27-7097

シリーズ武雄の治水 バックナンバーはこちらから▶

